



### 被災した農業経営者への温度差

平成23年度後半

#### 先端プロの実行

先端プロを開始した当時、プロジェクトを展開する現場は、取組の主体である経営体も被災しており、いまだ復興の途上であった。本事業は国費を活用したものであるため、生産コストの5割削減あるいは収益率2倍を可能とする体系化に取り組むことになり、できるものから進めることとなった。

その結果、キャベツやタマネギの安定生産技術の確立のほか、IPM(総合的病害虫管理)を活用した栽培技術の普及につながった。

#### 農業園芸総合研究所職員

「被災した経営体に対し、再生のための技術的な提案を国の試験場やメーカーの方々と調整しながら行いました。」

ところが提案側の熱意に対して、最初経営者の方々にはなかなかついてきてもらえませんでした。経営体の様々な担当者と話をすることで、具体的な内容を示しながら、キャベツから育てようなどと提案し、受け入れていただいたところからスタートしました」

「震災での試験研究の難しさを感じました。現地でも試験研究をやるにも生産者が復旧していないことには一緒に取り組めません。先端プロが始まって間もないところで、新しい研究を現地に示されなければならぬと思う一方で、現場の復旧が進まないことで取組が追いつかない状況でした」

「年に2回運営委員会が開かれ、進捗状況の確認や指摘がありました。国の予算なので前提としての大きな目標は『労働時間の半減』

と収益の3割アップ』というかなりハードルの高いものでした」

「我々一人一人の仕事で『失敗したら来年はできない』『2年も3年も待てない』という空気があり、復旧・復興の途上にある現場の力になる成果を、初年度から出そうと思っていました。それは大事なことです。それよりも被災した目の前の経営体の状況をもっと把握するべきだったと今では思います」

「研究というのは、先に進むことが本来の目的です。ただ今回は試験研究とはいえ、先のことや今の状況を進めていいのかわかりませんでした。ただの現状復旧であれば土壌調査などの支援はできますが、単なる復旧ではなく、新しいものを生み出す分野ですので、最初はキャベツがありました」

「キャベツはこれまで生産に機械を使っている一方、収穫は手作業でした。平成25年にキャベツ収穫機が市販されたのに合わせ、現地に合う形で、キャベツの機械化一貫体系(種まきから植え付け、収穫まで)を作りました。また収穫期出荷ができるように、品種の選び方、植え付け時期などの条件を整えたほか、タマネギの生産も機械化体系と、植え付け時期と収穫時期の調整により、同じ畑でキャベツとタマネギを栽培する方法を提案しました」

「害虫や病気を扱う部署では、IPMといわれる病害虫の管理の仕方、化学合成農薬だけに頼らず作る技術をテーマに進めました。他県や民間企業の協力でうまくできたと思っています。UV-Bの活用も今かなり普及しています。先端技術の社会実装で普及活動も続いています。今でも農家さんにお勧めしている技術の一つです」

### 災害対応の経験から学んだこと

#### 先端プロの成果

#### 農業園芸総合研究所職員

「土地も施設も機械も全てなくなり、新しく生み出すという取組は今回が初めてでした。」

「土地利用型農業の栽培技術では、水稲の育苗が3月から5月までしかハウスを使わないので、水稲の営農体系に野菜を導入し、空いた時期のハウスを有効利用しようという取り組みです。また、ミニトマトを直接地面に植えず箱に入れて栽培し、水稲の時期には撤去するような栽培技術を作っています」

「先端プロ以外にも、平成26年から平成28年までの間に国で全国10か所の次世代型施設園芸のモデル地区を作りました。宮城県では石巻市に、トマトとパプリカ栽培の最先端施設が、県内例のない広さで整備され、試験研究が関わって、先端プロと同じようにデータや環境整理の取組を進めています。また、県の試験場でも最先端の栽培ができる施設ができています。それらをうまく活用することで、宮城県が先進的な園芸産地になったとも言えます。個々の成果も大切ですが、県全体で生産者の方々も確立していない新しい技術の試験研究に一緒に入ったことで、成果が見え始めているのかと思っています」

「先端プロは平成29年までで実証がひと区切りとなりました。平成30年度から令和2年度までは、同じ先端プロの中で、社会実装として普及させることを目標に取り組みました」

#### 被災した農業経営者への温度差

平成23年度後半

#### 先端プロの実行

先端プロを開始した当時、プロジェクトを展開する現場は、取組の主体である経営体も被災しており、いまだ復興の途上であった。本事業は国費を活用したものであるため、生産コストの5割削減あるいは収益率2倍を可能とする体系化に取り組むことになり、できるものから進めることとなった。

その結果、キャベツやタマネギの安定生産技術の確立のほか、IPM(総合的病害虫管理)を活用した栽培技術の普及につながった。

#### 農業園芸総合研究所職員

「被災した経営体に対し、再生のための技術的な提案を国の試験場やメーカーの方々と調整しながら行いました。」

ところが提案側の熱意に対して、最初経営者の方々にはなかなかついてきてもらえませんでした。経営体の様々な担当者と話をすることで、具体的な内容を示しながら、キャベツから育てようなどと提案し、受け入れていただいたところからスタートしました」

「震災での試験研究の難しさを感じました。現地でも試験研究をやるにも生産者が復旧していないことには一緒に取り組めません。先端プロが始まって間もないところで、新しい研究を現地に示されなければならぬと思う一方で、現場の復旧が進まないことで取組が追いつかない状況でした」

#### 被災した農業経営者への温度差

平成23年度後半

#### 先端プロの実行

先端プロを開始した当時、プロジェクトを展開する現場は、取組の主体である経営体も被災しており、いまだ復興の途上であった。本事業は国費を活用したものであるため、生産コストの5割削減あるいは収益率2倍を可能とする体系化に取り組むことになり、できるものから進めることとなった。

その結果、キャベツやタマネギの安定生産技術の確立のほか、IPM(総合的病害虫管理)を活用した栽培技術の普及につながった。

#### 農業園芸総合研究所職員

「被災した経営体に対し、再生のための技術的な提案を国の試験場やメーカーの方々と調整しながら行いました。」

ところが提案側の熱意に対して、最初経営者の方々にはなかなかついてきてもらえませんでした。経営体の様々な担当者と話をすることで、具体的な内容を示しながら、キャベツから育てようなどと提案し、受け入れていただいたところからスタートしました」

「震災での試験研究の難しさを感じました。現地でも試験研究をやるにも生産者が復旧していないことには一緒に取り組めません。先端プロが始まって間もないところで、新しい研究を現地に示されなければならぬと思う一方で、現場の復旧が進まないことで取組が追いつかない状況でした」

県内の他地区でやっていた新しい技術を様々なところで見ることができたことで、結果として県内に広まったことは、大変大きな成果だと思います」

#### 機関同士の連携

#### 農業園芸総合研究所職員

「我々は試験研究機関ですが、現地への普及に関しては農業改良普及センターという普及組織と一緒にやっていたりしてはなりません。震災発生当時は、普及センターも状況把握で忙しく、先端プロでテーマを設定する際に関われなかったと思います。その後まよりの段階でも普及センターとの連携が弱かったと思います。今でもより強い連携が必要だと感じています」

#### ある程度目的を持った研究を

#### 農業園芸総合研究所職員

「試験研究は目的に沿った計画を組み、成果が出るまで時間がかかります。震災発生後、すぐに何ができるかを組み立てることの難しさを感じました。今後起こりうる自然災害に対して、ある程度の見通しや計画を持った研究をやっていくことで対応できるのかなと思っています」

### 今後の災害対応に向けた取組等

#### 農地の早期復旧に向けた被災状況の迅速な調査分析

津波被災農地が復旧するためには、農地内の

#### 被災した農業経営者への温度差

平成23年度後半

#### 先端プロの実行

先端プロを開始した当時、プロジェクトを展開する現場は、取組の主体である経営体も被災しており、いまだ復興の途上であった。本事業は国費を活用したものであるため、生産コストの5割削減あるいは収益率2倍を可能とする体系化に取り組むことになり、できるものから進めることとなった。

その結果、キャベツやタマネギの安定生産技術の確立のほか、IPM(総合的病害虫管理)を活用した栽培技術の普及につながった。

#### 農業園芸総合研究所職員

「被災した経営体に対し、再生のための技術的な提案を国の試験場やメーカーの方々と調整しながら行いました。」

ところが提案側の熱意に対して、最初経営者の方々にはなかなかついてきてもらえませんでした。経営体の様々な担当者と話をすることで、具体的な内容を示しながら、キャベツから育てようなどと提案し、受け入れていただいたところからスタートしました」

「震災での試験研究の難しさを感じました。現地でも試験研究をやるにも生産者が復旧していないことには一緒に取り組めません。先端プロが始まって間もないところで、新しい研究を現地に示されなければならぬと思う一方で、現場の復旧が進まないことで取組が追いつかない状況でした」

#### 後輩たちへのメッセージ

※所属は本テーマに関する業務に従事した当時のもの

